

# 第 1 部 全体構想

# I 田原市の現況

## 1. 田原市の概況

### 1) 位置及び地形

田原市は、愛知県の最南端の渥美半島に位置し、東側は中核市である豊橋市に接しています。

渥美半島は、中央部を赤石山脈の末端が走っており、山と川が入り組む起伏に富んだ地形となっています。

さらに、太平洋に面する伊良湖岬から浜名湖口までの海岸線は、「片浜十三里」といわれる直線状の海岸となっており、ここには高さ 20m 以上もある断崖が太平洋の荒波に浸食されて切り立っています。

また、半島の先端付近は、伊良湖水道の潮流に洗われた奇岩などの景勝地があり、大自然の雄大さが見られます。



図7 田原市の位置

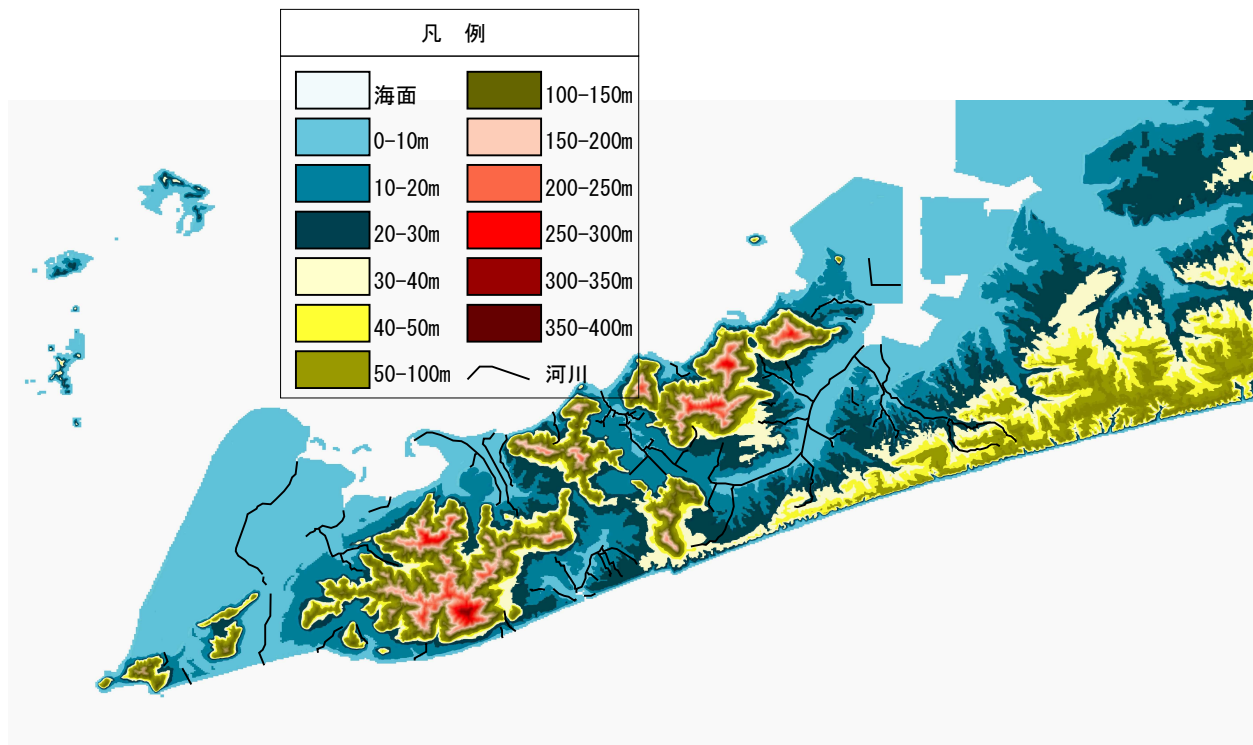


図8 渥美半島の地形

## 2) 沿革

明治初年、現田原市の地域には、59の村（田原：31村、赤羽根：6村、渥美：22村）が存在していました。その後、明治4年の廃藩置県、改置府県により、渥美半島における全村は額田県に統合され、翌年に現在の愛知県の管轄となりました。

明治11年の郡区町村編成法の公布時までには、41の村に集約され、さらに、明治22年の愛知県における市制町村制の施行時までには15村へと統合が進みました。さらに、明治38年には、愛知県が町村合併計画を公表しました。これを契機に翌39年には豊橋市と渥美郡が分離し、田原地域は杉山村、田原町、野田村、神戸村の4町村となり、赤羽根地域では赤羽根村が誕生し、渥美地域では、伊良湖岬村、泉村、福江町の3町村に再編されました。

昭和に入ると、戦後、地方自治法の施行を経て、昭和28年には、町村合併促進法が施行されました。これを受け、昭和30年1月には田原町、野田村、神戸村の合併により田原町が新設され、同年4月には、田原町が杉山村（現豊橋市）の一部であった六連地区を編入することにより、合併前の田原町の区域となりました。同じく同年4月、伊良湖岬村、泉村、福江町の合併により渥美町も誕生しました（昭和の大合併）。なお、赤羽根村では、昭和33年に町制を施行して赤羽根町となりました。

その後、田原・赤羽根・渥美による3町の時代が50年近く続きましたが、合併特例法の改正を背景としたいわゆる平成の大合併により、平成15年8月20日、田原町が赤羽根町を編入合併するとともに市制施行を行い、田原市となりました。さらに、2年後の平成17年10月1日、渥美町の編入合併により新「田原市」が誕生しました。

## 3) 自然環境

田原市は、三河湾国立公園の一部に指定されており、宮山原生林は三河湾国立公園の特別保護地区に指定されています。大山中腹部は、第1種特別地域、伊良湖地区、西ノ浜、三河湾沿岸部の一部や姫島、太平洋岸、蔵王山東麓が第2種特別地域、蔵王山、衣笠山などの田原山地、サンテパークたはら北側の山地、大山を中心とする山地、初立池周辺の山地が第3種特別地域に指定されています。

また、市内の内陸部は、渥美半島県立自然公園に指定されており、自然豊かな地域となっています。

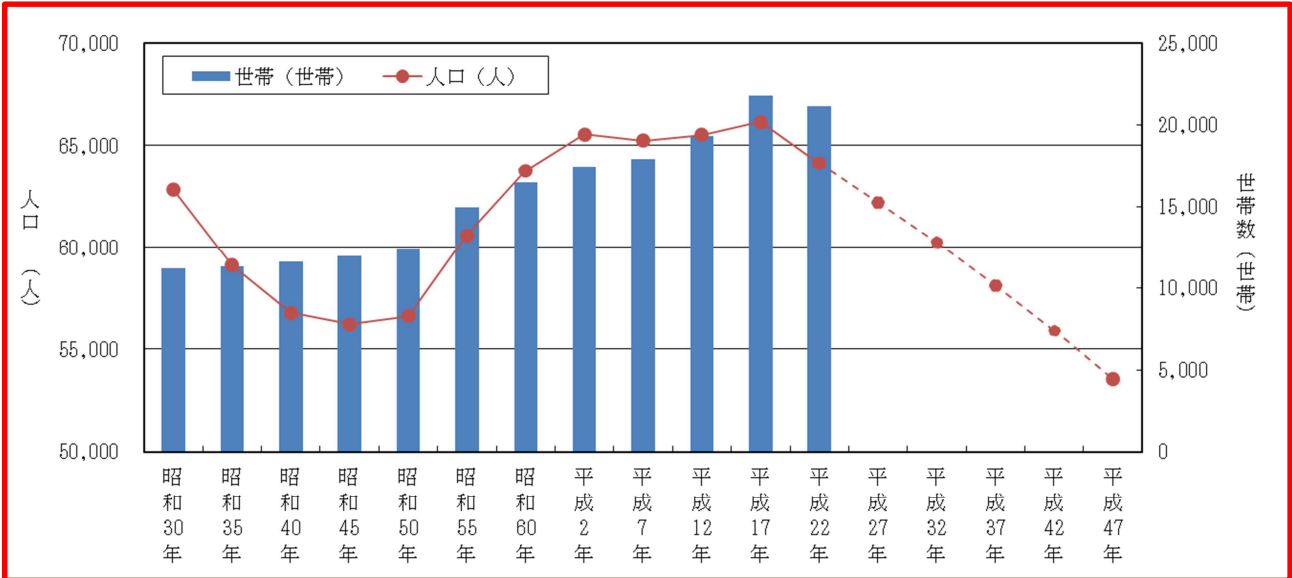


図9 動植物の生息環境

## 2. 人口・世帯

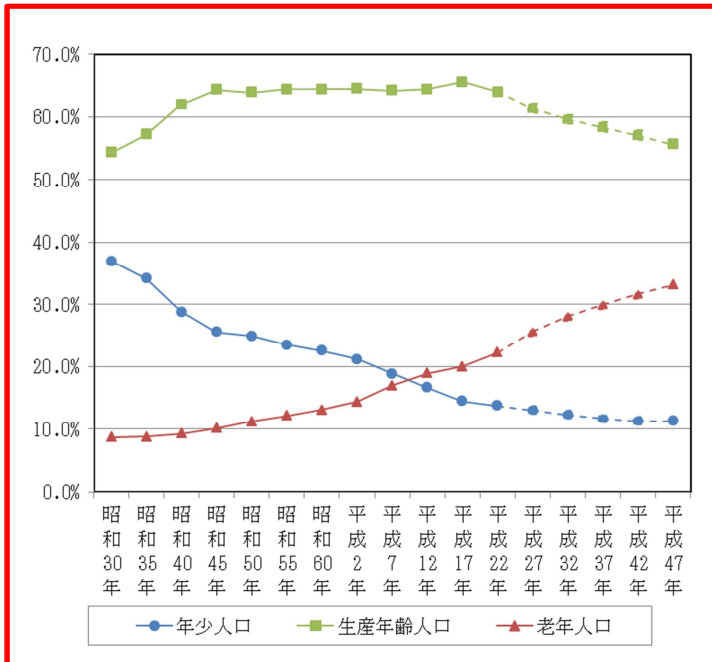
国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、平成 47 年における本市の人口は約 53,500 人（平成 22 年と比べ 16.5%減）になると推計され、そのうち、生産年齢人口は 11,000 人余（平成 22 年と比べ 27%減）減少する一方、65 歳以上の老年人口は 3,500 人余（平成 22 年と比べ 25%増）増加し、総人口に対する老年人口の割合は約 33%に達することが推計されています。

すでに、渥美地域及び赤羽根地域では、平成 22 年時点で高齢化率が 25%を超えており、4 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となっています。



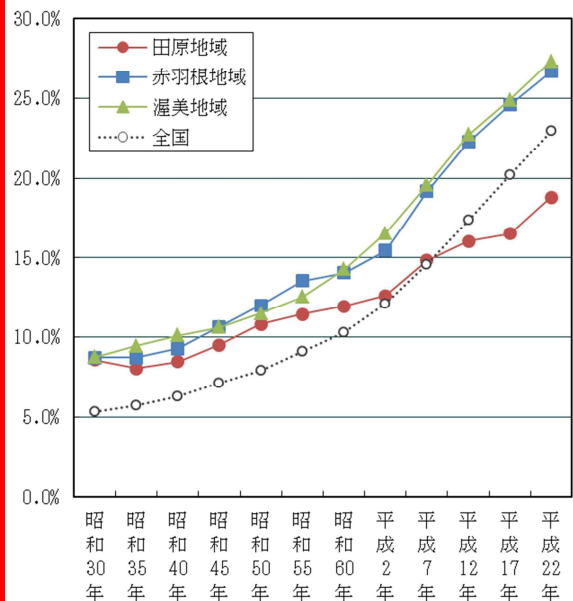
資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)

図 10 人口・世帯数の推移と将来推計



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)

図 11 年齢 3 階層別人口比率の推移と将来推計

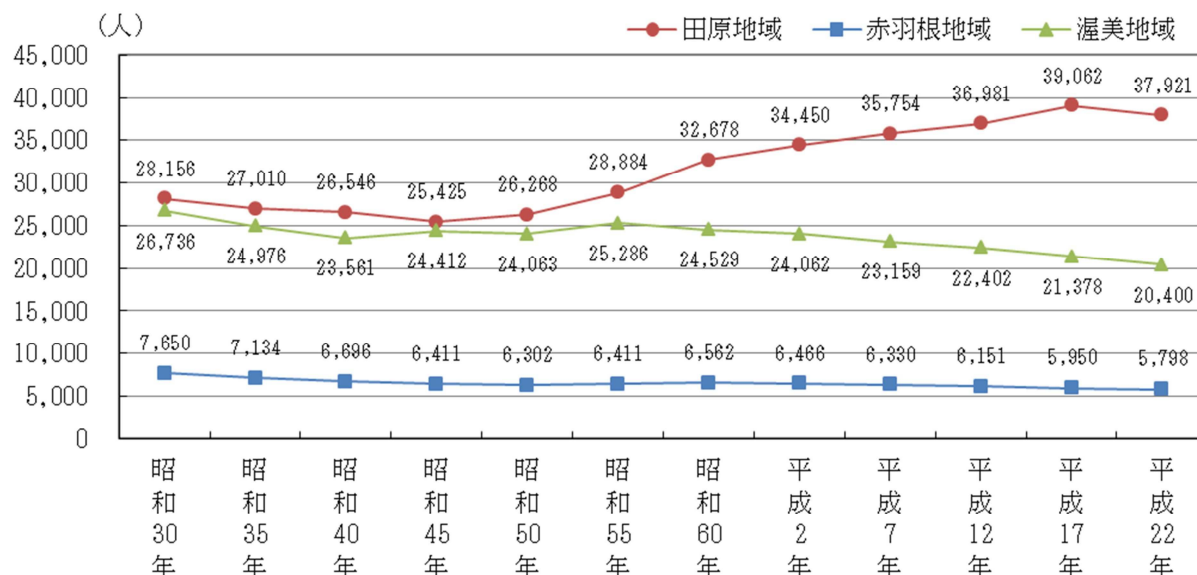


資料：国勢調査

図 12 地域別老年人口(65 歳以上)比率の推移



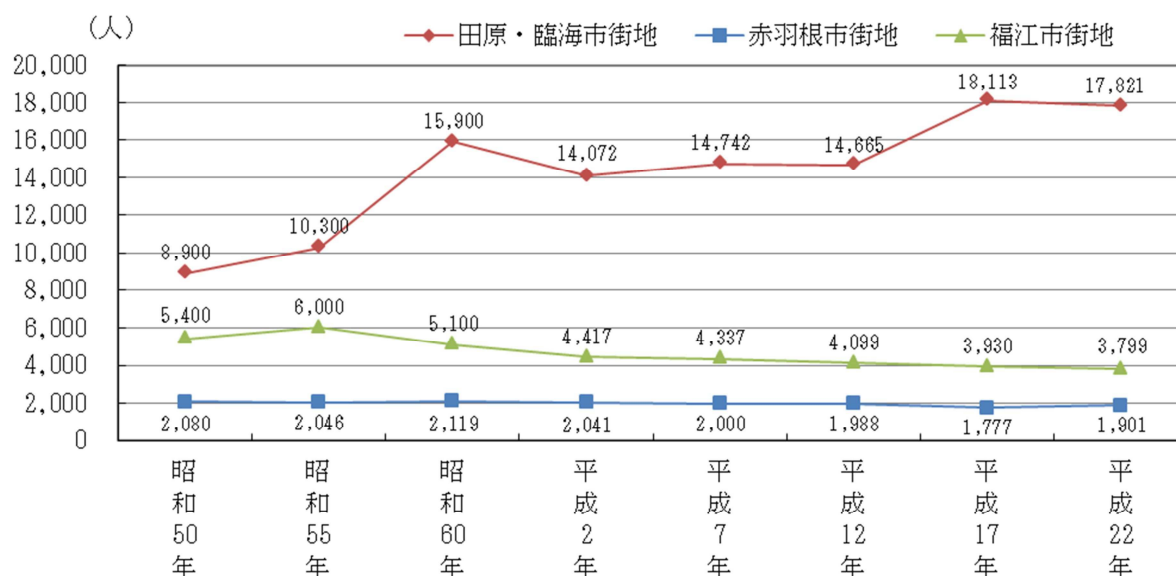
地域（旧 3 町）別に人口の推移をみると、昭和 45 年頃には田原地域と渥美地域の人口は同程度でしたが、その後、田原地域では人口が増加する一方、渥美地域は昭和 55 年をピークに減少し続けています。また、赤羽根地域は、昭和 50 年から昭和 60 年にかけて一時人口が増加しましたが、総体として緩やかな減少傾向にあります。



資料: 国勢調査

図 13 地域別の人口推移

各市街地内の人口の推移をみると、田原・臨海市街地では平成 17 年まで概ね増加傾向で推移し、特に平成 12 年から平成 17 年にかけて大きく増加しましたが、平成 22 年には減少に転じています。一方、赤羽根市街地では昭和 60 年以降、減少傾向が続きましたが、平成 22 年には増加に転じています。また、福江市街地は、昭和 55 年以降、一貫して減少が続いています。



資料: 都市計画基礎調査

図 14 市街地別の人口推移

地区別の人口推計をみると、平成47年には、平成26年の人口に比べ30%以上減少する地区も見られ、人口減少率は高齢化率と同様、渥美半島西部で大きくなっています。

地区	実績（人）		推計値（人）		変化		
	H21年	H26年	H37年	H47年	増加率		
					(H21～H26)	(H26～H37)	(H26～H47)
六連	1,814	1,774	1,706	1,641	-2.2%	-3.8%	-7.5%
神戸	6,751	6,726	6,529	6,178	-0.4%	-2.9%	-8.1%
大草	1,335	1,300	1,212	1,082	-2.6%	-6.8%	-16.8%
田原東部	3,970	4,043	4,112	4,056	1.8%	1.7%	0.3%
田原南部	1,449	1,592	1,561	1,503	9.9%	-1.9%	-5.6%
童浦	7,001	7,002	7,037	7,153	0.0%	0.5%	2.2%
田原中部	6,831	6,769	6,535	6,079	-0.9%	-3.5%	-10.2%
野田	3,515	3,319	2,854	2,448	-5.6%	-14.0%	-26.2%
衣笠	6,003	5,899	5,780	5,657	-1.7%	-2.0%	-4.1%
高松	1,690	1,600	1,385	1,175	-5.3%	-13.4%	-26.6%
赤羽根	2,570	2,488	2,298	2,068	-3.2%	-7.6%	-16.9%
若戸	1,920	1,852	1,667	1,501	-3.5%	-10.0%	-19.0%
泉	4,006	3,807	3,414	3,006	-5.0%	-10.3%	-21.0%
清田	2,446	2,355	2,113	1,856	-3.7%	-10.3%	-21.2%
福江	4,458	4,331	3,969	3,584	-2.8%	-8.4%	-17.2%
中山	5,047	4,775	4,182	3,619	-5.4%	-12.4%	-24.2%
亀山	1,299	1,187	959	776	-8.6%	-19.2%	-34.6%
伊良湖	923	858	713	584	-7.0%	-16.9%	-31.9%
堀切	2,190	2,029	1,625	1,282	-7.4%	-19.9%	-36.8%
和地	1,394	1,311	1,136	956	-6.0%	-13.3%	-27.1%

資料：住民基本台帳（実績は各年3月31日現在）

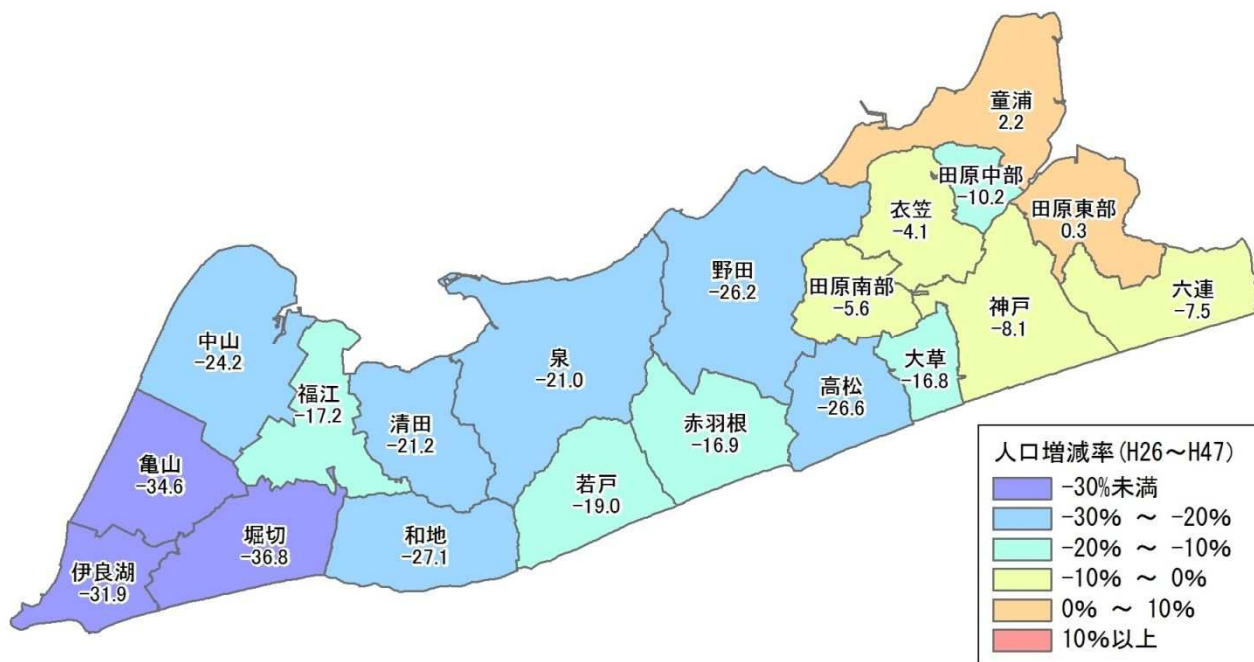


図15 地区別人口推計（H26年⇒H47年）

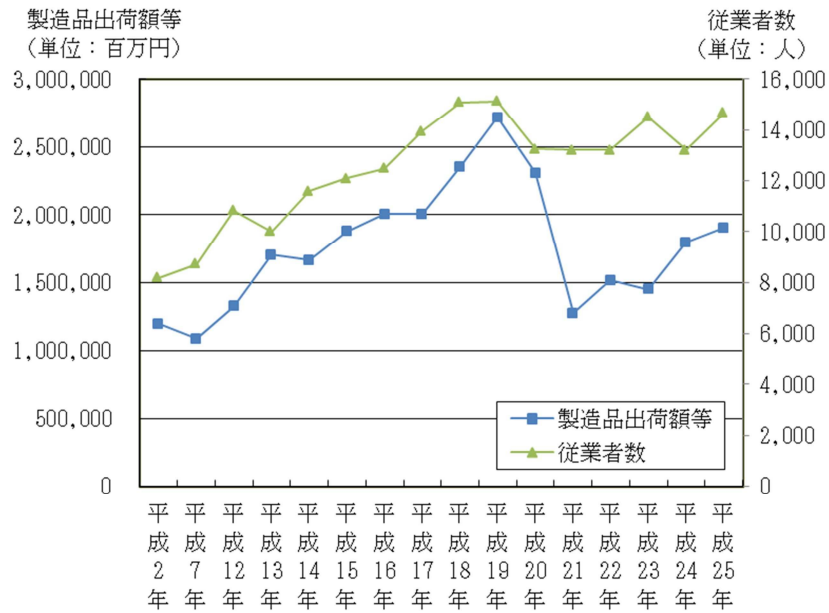
### 3. 産業構造

#### 1) 工業

本市における製造品出荷額等は、平成19年まで大きく増加しましたが、リーマンショックの影響等により一時大きく減少し、平成22年以降は回復傾向にあります。

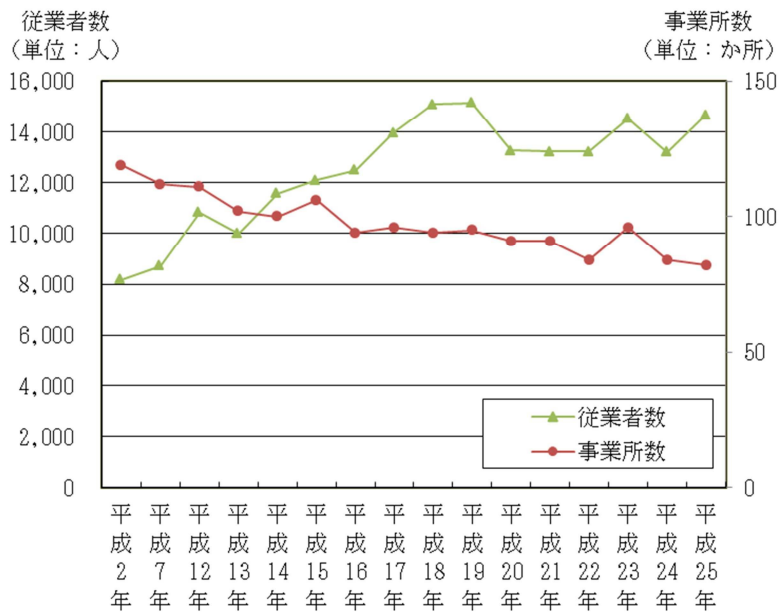
それに伴い、従業者数も平成19年まで増加傾向にありましたが、平成20年に2千人ほど減少し、その後はほぼ横ばいで推移しています。

一方、事業所数は、製造品出荷額等の動向に関わらず、近年はほぼ横ばいの状況にあります。



資料:工業統計

図16 製造品出荷額等・従業者数の推移

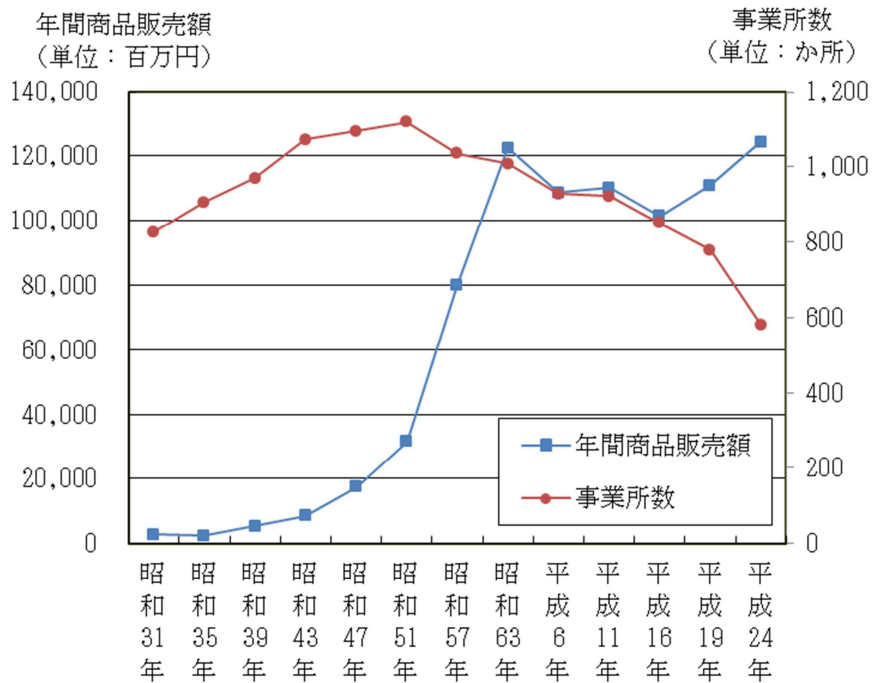


資料:工業統計

図17 従業者数・事業所数の推移

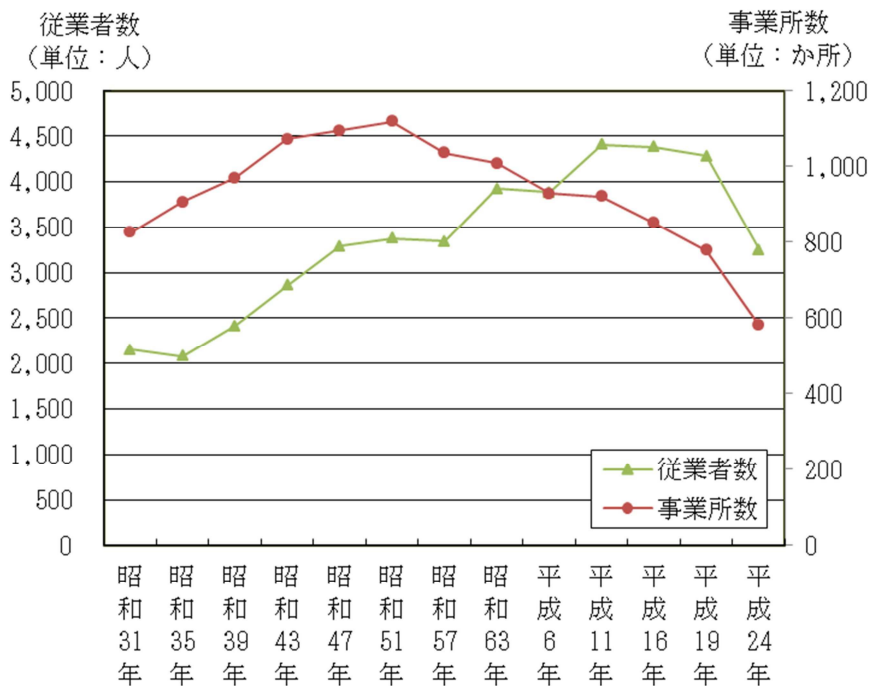
## 2) 商業

本市の年間商品販売額は、昭和 63 年まで大きく増加し、その後減少しましたが、平成 16 年以降再び増加に転じています。事業所数は、昭和 51 年から減少しており、平成 19 年から平成 24 年にかけて大きく減少しています。従業者数も同時期に大きく減少しています。



資料: 商業統計調査、経済センサス

図 18 年間商品販売額・事業所数の推移

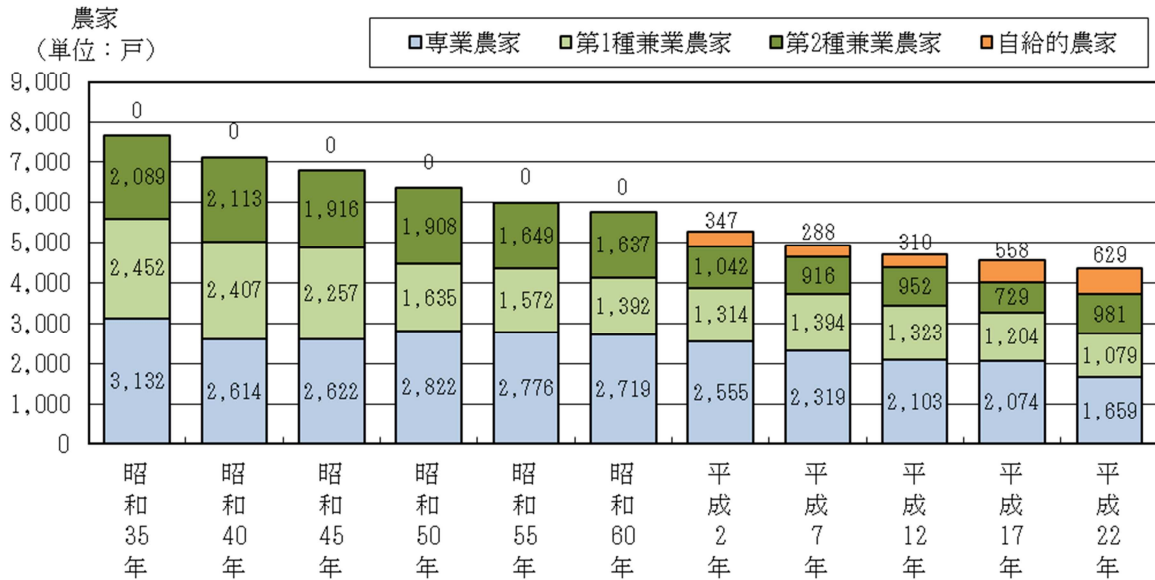


資料: 商業統計調査、経済センサス

図 19 従業者数・事業所数の推移

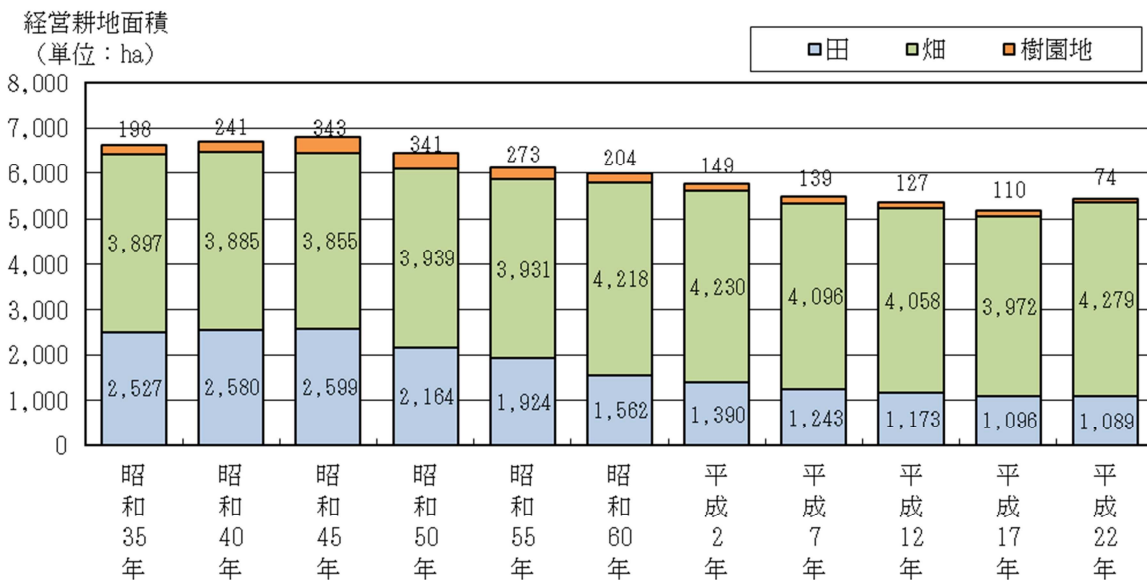
### 3) 農業

本市の農家数は年々減少しています。経営耕地面積は平成7年以降小さな変動はありますが、ほぼ横ばいです。



資料：農林業センサス

図20 農家数の推移

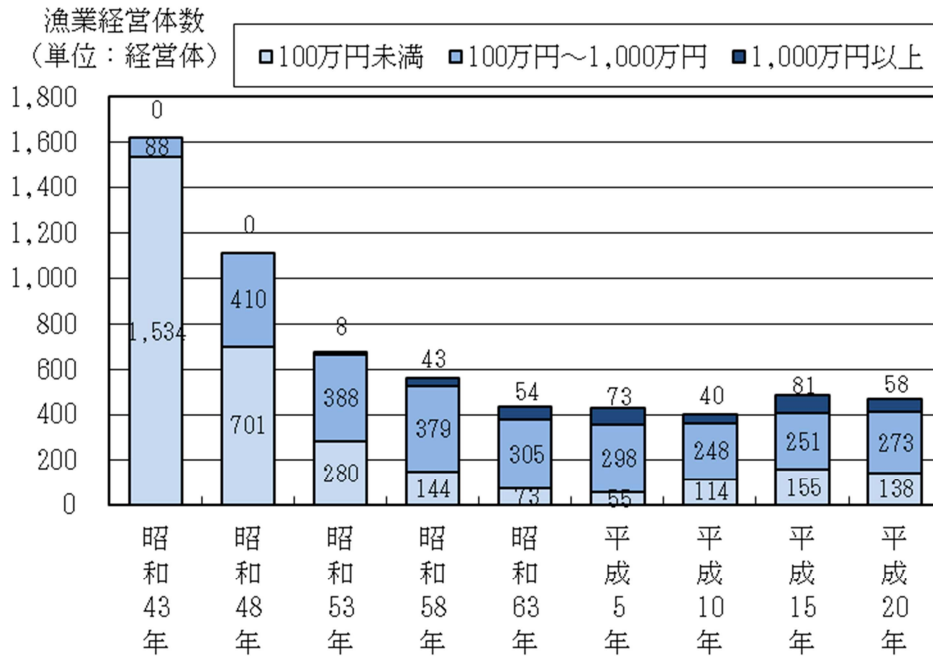


資料：農林業センサス

図21 経営耕地面積の推移

#### 4) 漁業

本市の漁業経営体数は、昭和 63 年まで減少しましたが、その後ほぼ横ばいです。



資料：漁業センサス

図 22 漁業経営体数の推移





## 4. 土地・建物利用

市街化区域は、都市計画区域 19,112ha のうちの約 9%にあたる 1,715ha となっており、用途地域指定面積の割合は、住居系が 32.1%、商業系が 2.8%、工業系が 65.1%と、市街化区域の半分以上が、工業系の用途地域となっています。

市街化区域内の土地利用の割合は、住宅系が 14.7%、商業系が 2.4%、工業系が 38.2%となっており、工業系の土地利用割合が高くなっています。一方、市街化調整区域の土地利用の約 8 割は自然的土地利用となっています。

**表 1 用途地域の指定状況** (平成 28 年 3 月 1 日告示)

種 別	面積 (ha)	構成比 (%)			
		対行政区域	対市街化区域		
行政区域 (都市計画区域)	19,112	100.00	-		
市街化調整区域	17,397	91.03	-		
市街化区域	住居系	第 1 種低層住居専用地域	74	0.39	4.3
		第 2 種低層住居専用地域	4.6	0.02	0.3
		第 1 種中高層住居専用地域	119	0.62	6.9
		第 2 種中高層住居専用地域	48	0.25	2.8
		第 1 種住居地域	208	1.09	12.1
		第 2 種住居地域	93	0.49	5.4
		準住居地域	3.5	0.02	0.2
		(小計)	551	2.88	32.1
	商業系	近隣商業地域	29	0.15	1.7
		商業地域	19	0.10	1.1
		(小計)	48	0.25	2.8
	工業系	準工業地域	57	0.30	3.3
		工業地域	38	0.20	2.2
		工業専用地域	1,021	5.34	59.5
(小計)		1,116	5.84	65.1	
合計	1,715	8.97	100.0		

**表 2 土地利用現況**

		市街化区域		市街化調整区域		市全体	
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
自然的土地利用	田	0.92	0.1	1,217.23	7.1	1,218.15	6.5
	畑	45.48	2.6	5,834.57	34.0	5,880.05	31.1
	山林	46.23	2.7	5,445.94	31.7	5,492.17	29.1
	水面	9.96	0.6	334.05	1.9	344.01	1.8
	その他の自然地	68.16	4.0	1,516.75	8.8	1,584.91	8.4
	小計	170.75	10.0	14,348.54	83.6	14,519.29	76.9
都市的土地利用	住宅用地	252.02	14.7	795.60	4.6	1,047.62	5.5
	商業用地	40.77	2.4	99.91	0.6	140.68	0.7
	工業用地	654.97	38.2	183.02	1.1	837.99	4.4
	公的・公益用地	67.26	3.9	321.93	1.9	389.19	2.1
	道路用地	154.84	9.0	1,063.86	6.2	1,218.70	6.4
	交通施設用地	3.23	0.2	8.37	0.0	11.60	0.1
	公共空地	22.63	1.3	101.22	0.6	123.85	0.7
	その他の空地	107.29	6.2	97.06	0.6	204.35	1.1
	低未利用地	241.24	14.1	146.49	0.9	387.73	2.1
	小計	1,544.25	90.0	2,817.46	16.4	4,361.71	23.1
総計		1,715.00	100.0	17,166.00	100.0	18,881.00	100.0

資料：平成 25 年度都市計画基礎調査

平成26年度、地区自治会の協力を得て調査した結果、市内で活用ができそうな空き家の総数は市全体で1,185棟あり、それぞれ市街化区域に305棟、市街化調整区域の集落地に778棟、集落地以外の市街化調整区域に102棟あります。

また、耐震性が低い可能性のある昭和56年以前の空き家が、市街化区域では77%、集落地では85%を占めています。

**表 3 建築年代別空き家建物の状況**

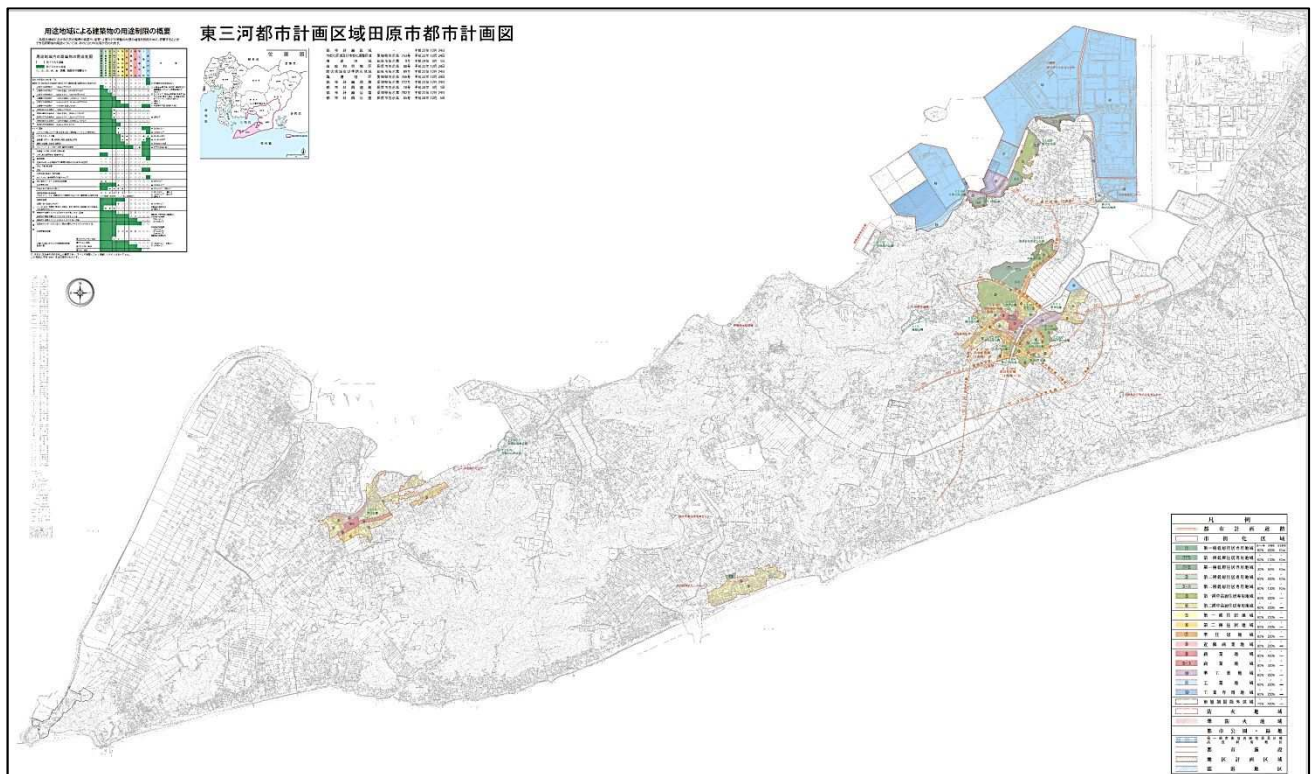
	S45年以前		S46年～S56年		S57年以降		計		建築年次不明	建物総計	箇所数
	棟数	比率(%)	棟数	比率(%)	棟数	比率(%)	棟数	比率(%)			
田原市街地	78	52.0	31	20.7	41	27.3	150	100.0	23	173	109
臨海市街地	0	0.0	0	0.0	5	100.0	5	100.0	0	5	4
福江市街地	40	67.8	12	20.3	7	11.9	59	100.0	30	89	43
赤羽根市街地	19	76.0	4	16.0	2	8.0	25	100.0	13	38	27
市街化区域	137	57.3	47	19.7	55	23.0	239	100.0	66	305	183
集落地 (50戸連担地域)	353	62.9	121	21.6	87	15.5	561	100.0	217	778	359
市街化調整区域 (集落地以外)	28	49.1	13	22.8	16	28.1	57	100.0	45	102	63
市全体	518	60.4	181	21.1	158	18.4	857	100.0	328	1,185	605

資料：平成26年度都市計画基礎調査

※対象範囲は臨海部の工業専用地域を除く

※対象とする空き家は以下の建物を除く

- ・農地や山林にある農林漁業用倉庫
- ・居住している建物（母屋）の敷地内にある離れなどの建物
- ・不動産業者が管理している建物
- ・アパートやマンションなどの空き部屋

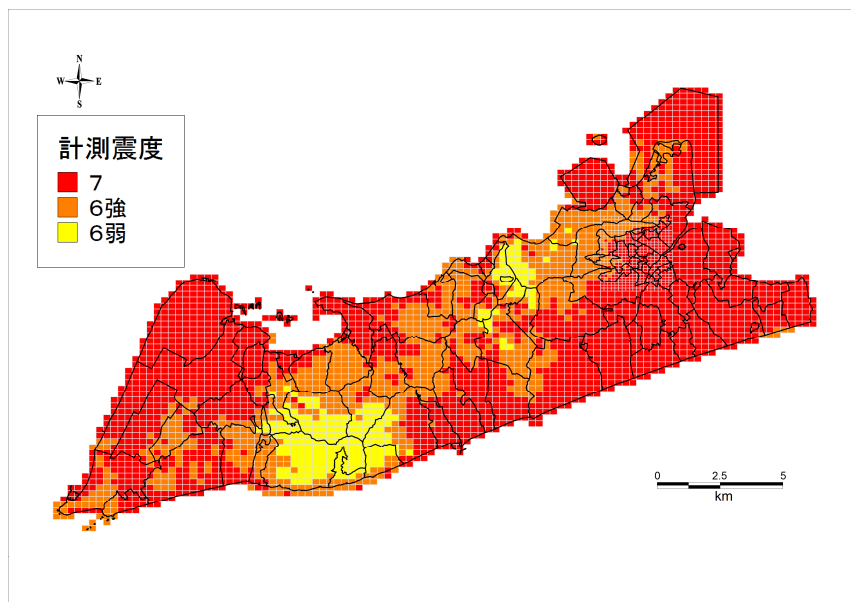


**図 25 都市計画総括図**

## 5. 地震・津波・高潮等

### 1) 地震動

「田原市南海トラフ地震被害予測調査」(平成 27 年 3 月)によると、理論上最大想定モデルでは本市の最大震度は震度 7 で想定され、市街地のほとんどの地区で震度 7、全市域で震度 6 弱以上と想定されています。

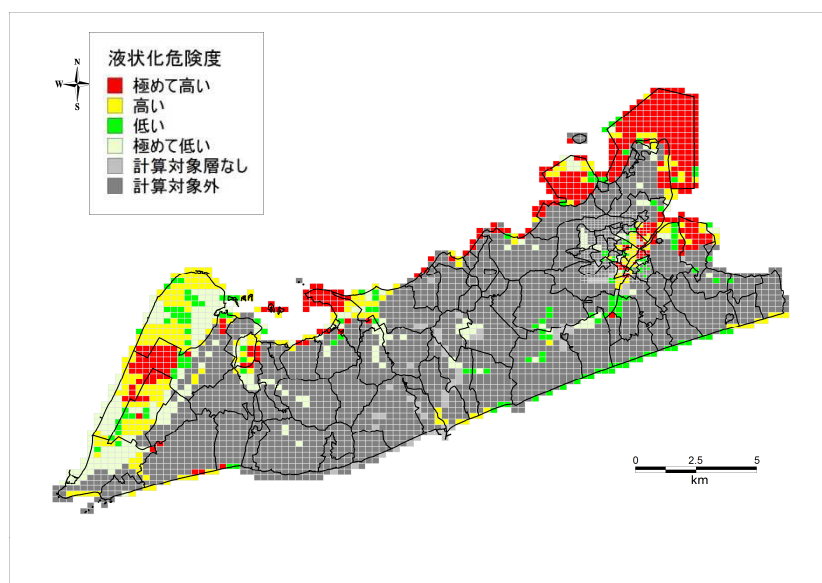


資料：田原市南海トラフ地震被害予測調査

図 26 震度分布図 (陸側ケースと東側ケースの最大値)

### 2) 液状化

「田原市南海トラフ地震被害予測調査」(平成 27 年 3 月)によると、本市の液状化の危険度は、埋立地及び河川沿いの低地等で高くなっています。

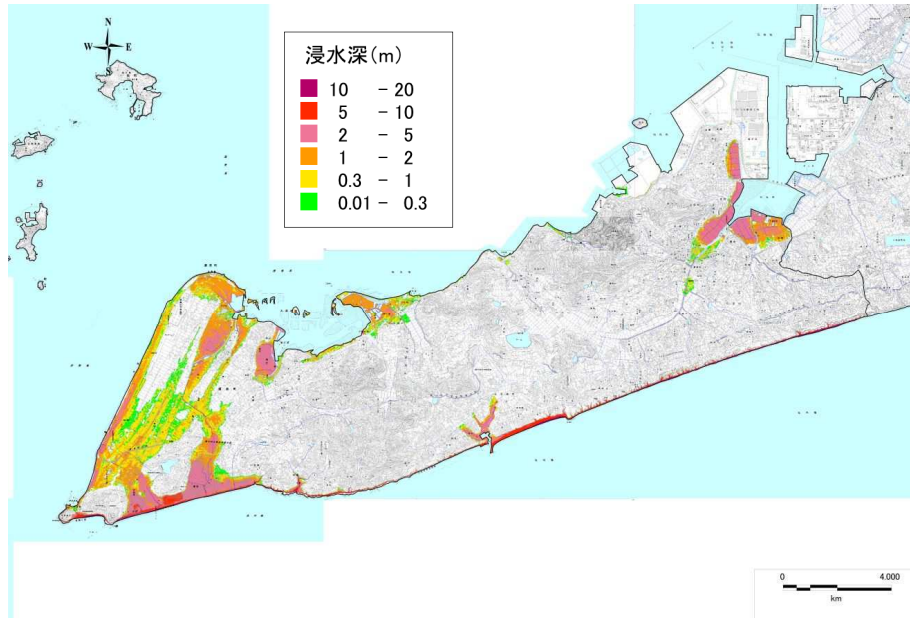


資料：田原市南海トラフ地震被害予測調査

図 27 液状化危険度図 (陸側ケースと東側ケースの最大値)

### 3) 津波

「田原市南海トラフ地震被害予測調査」(平成 27 年 3 月)によると、理論上最大モデルによる津波の浸水が想定される区域は、田原市街地の汐川沿いや福江市街地の沿岸部、半島先端部など広範囲にわたっています。



資料：田原市南海トラフ地震被害予測調査

図 28 理論上最大想定モデル(ケース①)の津波の最大浸水深分布図

### 4) 高潮

愛知県が平成 26 年 11 月 26 日に公表した愛知県高潮浸水想定によると、田原市街地や臨海市街地において 2m 以上の浸水が予測されています。



図 29 愛知県高潮浸水想定図(平成 26 年 11 月 26 日公表)



## 6. 交通体系

### 1) 広域圏道路網構想

中部圏プロジェクトマップによると、本市に係る**高規格幹線道路**として、長野県飯田市と東名高速道路及び新東名高速道路のインターチェンジを結ぶ三遠南信自動車道路から、本市を経て三重県鳥羽市をつなぐ「三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）建設事業」が位置づけられています。



資料：愛知県 HP

図 30 中部圏プロジェクトマップ（平成 27 年 7 月）



## 2) 幹線道路網（国道・県道・一級市道）

市内の幹線道路網は、東西に細長い市域の骨格として国道 42 号、国道 259 号が通っています。

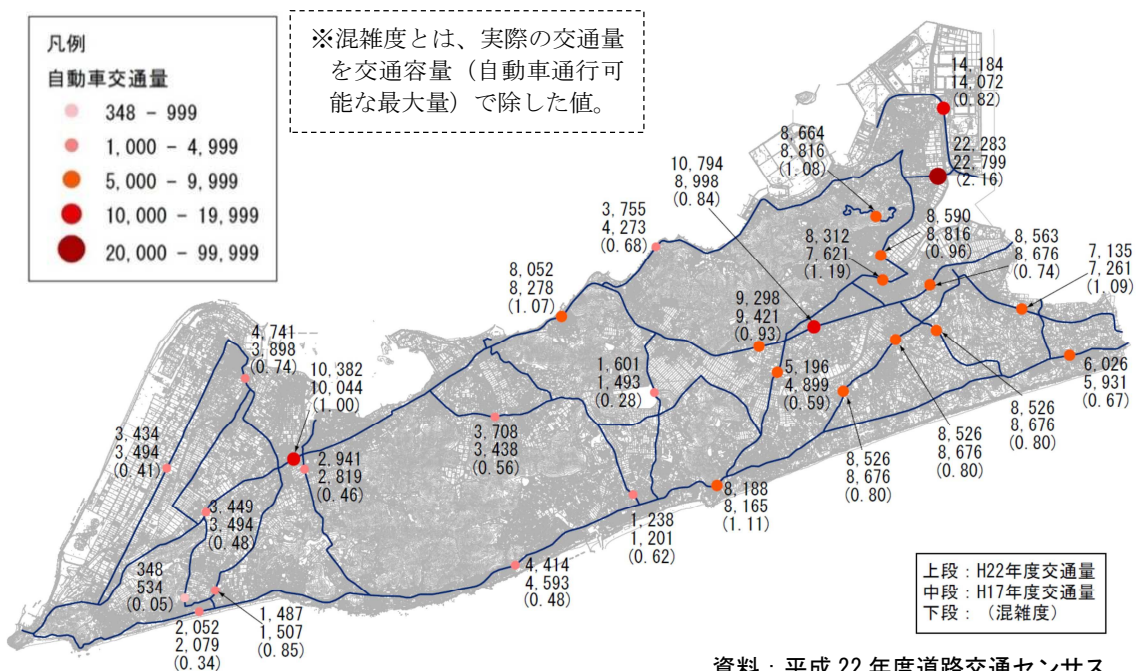
臨海市街地と田原市街地及び 2 本の国道をつなぐ主要地方道田原高松線、臨海市街地から海岸線に沿って国道 259 号をつなぐ主要地方道豊橋渥美線があります。ほかにも、これらの国道、主要地方道と各集落等をつなぐ形で一般県道、一級市道が通っています。



図 31 国道・県道・一級市道位置図

## 3) 交通量等

平成 22 年度道路交通センサスによる自動車交通量は、主要地方道豊橋渥美線の交通量が最も多く、2 万台を超える箇所があり、次いで国道 259 号が多く 1 万台を超えています。なお、混雑度（※）は主要地方道豊橋渥美線の一部区間で 2.16 と非常に高くなっています。



資料：平成 22 年度道路交通センサス

図 32 自動車交通量

#### 4) 都市計画道路

本市の都市計画道路は、11路線、総延長33,090mが都市計画決定されています。

平成27年3月末現在、改良済延長は、20,070m、改良率は60.7%となっており、未着手区間は主に市街化調整区域で多くなっています。

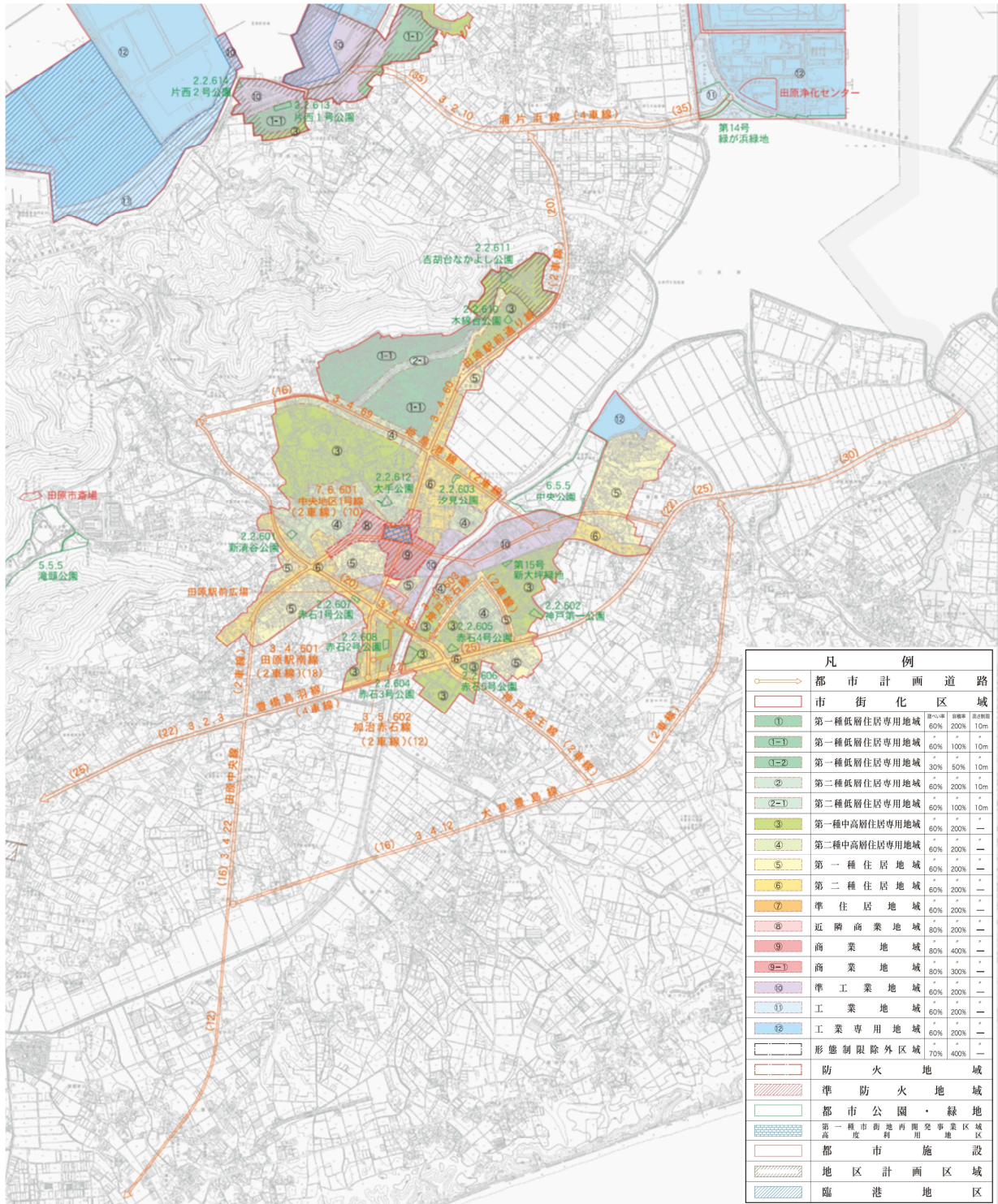


図 33 都市計画道路の位置



## 5) 鉄道

三河田原駅と新豊橋駅を結ぶ豊橋鉄道渥美線は、本市の骨格となる市外への移動の支援手段であり、豊橋鉄道(株)が運行しています。市内には三河田原、神戸、豊島、やぐま台の4駅があり、4駅の乗車人員は、平成22年度以降概ね増加傾向にあります。

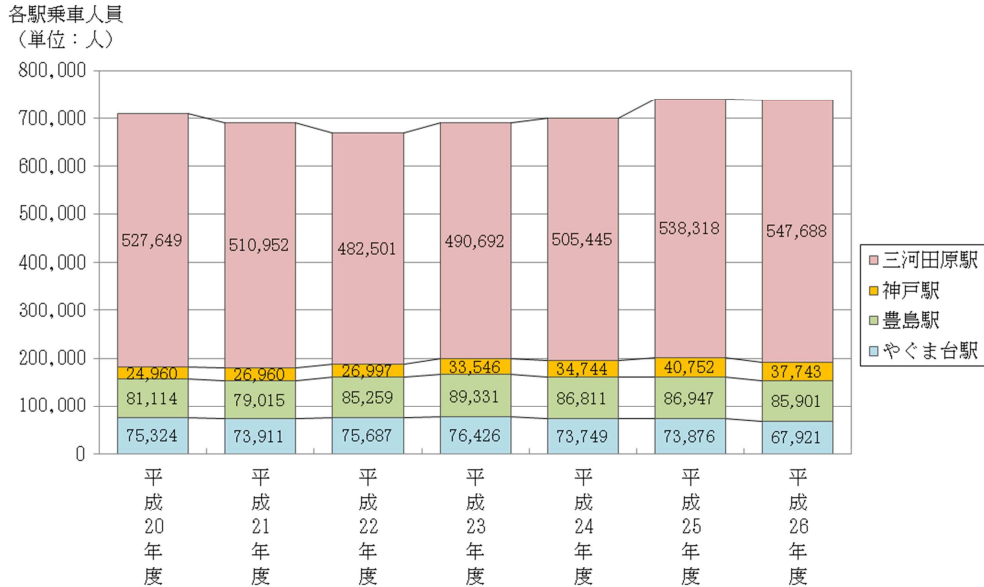


図34 鉄道駅乗車人員数の推移

## 6) バス

本市の骨格的な市内外への移動の支援手段として、豊橋駅と伊良湖岬を結ぶ「伊良湖本線」、渥美病院と保美を結ぶ「伊良湖支線」を豊鉄バス(株)が運行しています。

また、鉄道・路線バスを補完する役割として、田原市コミュニティバス(市街地バス・ぐるりんバス・地域乗合タクシー)が運行しています。



図35 田原市内の公共交通ネットワーク図(平成27年10月1日現在)

## 7. 都市基盤整備状況等

### 1) 宅地整備

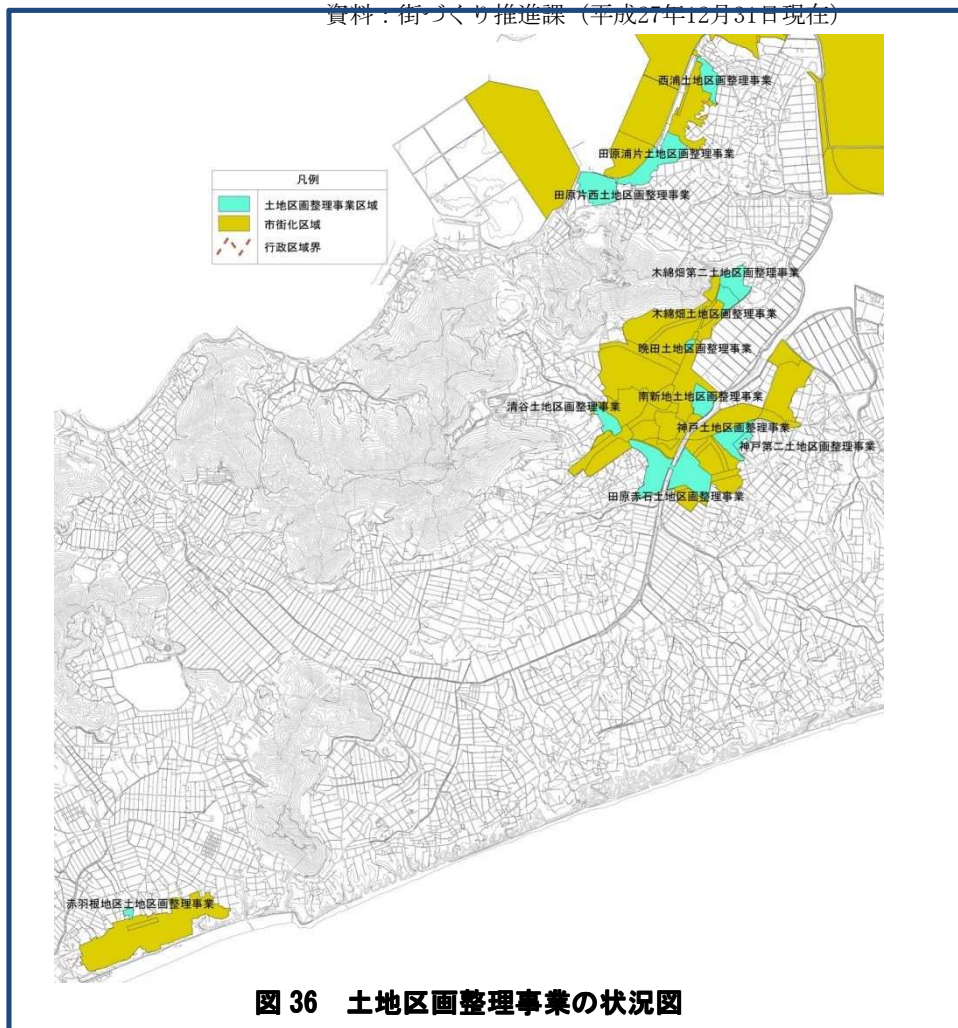
本市の土地区画整理事業は、清谷地区において、組合施行による最初の事業に着手し、その後、組合施行により9地区が完了しており、現在は、浦片地区（18.74ha）が組合施行により、事業を実施しています。

また、赤羽根地区において、事業化に向けた検討が行われています。

**表4 土地区画整理事業実施状況**

区分	事業主体	施工面積(ha)	事業期間	備考
清谷	組合	6.06	S50-S55	完了
神戸	組合	9.20	S56-S59	完了
南新地	組合	7.84	S57-S60	完了
晩田	組合	1.33	S62-S63	完了
神戸第二	組合	2.35	S61-H1	完了
西浦	組合	7.89	S61-H2	完了
木綿畑	組合	5.18	S61-H3	完了
赤石	組合	35.14	S60-H7	完了
木綿畑第二	組合	8.83	H4-H13	完了
片西	組合	14.95	H7-H19	完了
完了済計		98.77		
浦片	組合	18.74	H18-H28	施行中
赤羽根	組合	4.00	未定	準備中
計		121.51		

資料：街づくり推進課（平成27年12月31日現在）



**図36 土地区画整理事業の状況図**

## 2) 公園・緑地

本市の都市公園は、計画面積 48.91ha のうち、37.60ha が供用され、市民一人当たりの都市公園面積は、5.84 m<sup>2</sup>となっています。

**表5 都市公園の整備状況**

区分・種別	名 称	面 積 (h a)	供用面積 (h a)
街区公園	新清谷公園	0.19	0.19
	神戸第一公園	0.28	0.28
	汐見公園	0.25	0.25
	赤石3号公園	0.63	0.63
	赤石4号公園	0.20	0.20
	赤石5号公園	0.10	0.10
	赤石1号公園	0.10	0.10
	赤石2号公園	0.22	0.22
	姫見台公園	0.24	0.24
	木綿台公園	0.16	0.16
	吉胡台なかよし公園	0.27	0.27
	大手公園	0.31	0.31
	片西1号公園	0.35	0.35
	片西2号公園	0.10	—
	つばき公園	0.69	0.69
	夕陽が浜東公園	0.17	0.17
	夕陽が浜西公園	0.21	0.21
	西浦公園	1.44	1.44
築出公園	0.22	0.22	
大久保公園	0.27	0.27	
小 計	20 公園	6.40	6.30
総合公園	滝頭公園	10.70	9.40
	白谷海浜公園	10.80	10.80
運動公園	中央公園	14.50	4.59
小 計	3 公園	36.00	24.79
都市緑地	緑が浜緑地	5.83	5.83
	新大坪緑地	0.11	0.11
	緑が浜2号緑地	0.57	0.57
小 計	3 緑地	6.51	6.51
合 計	23公園3緑地	48.91	37.60
		市民1人当たり公園面積	市民1人当たり供用面積
		7.59 m <sup>2</sup>	5.84 m <sup>2</sup>

◆都市公園以外の施設

区分・種別	か所数	面 積 (m <sup>2</sup> )	供用面積 (m <sup>2</sup> )	備 考
史跡公園	3	24,319	24,319	公園の区分・種類については、公園台帳による
風致公園	0	—	—	
自然公園	2	11,872	11,872	
農業公園	1	110,000	110,000	
街区公園	23	33,522	33,522	
その他公園	7	19,008	19,008	
運動公園	6	106,951	106,951	
農村公園	31	60,692	60,692	
園 地	7	2,247,500	2,208,600	
遊 園	24	21,034	21,034	
広 場	29	82,076	82,076	
緑 地	32	590,646	590,645	
合 計	165	3,307,620	3,268,719	

☆施設全体（集計表）

区分・種類	都市公園施設		都市公園以外の施設	
	か所数	面 積 (ha)	か所数	面 積 (ha)
公 園	23	42.40	73	36.64
広 場 等	—	—	60	235.10
緑 地	3	6.51	32	59.10
小 計	26	48.91	165	330.84
合 計	191か所、379.75ha			

資料：街づくり推進課（平成27年4月1日現在）

### 3) 河川

本市の二級河川の河川延長は 40.3 km で流域面積は 116.9 km<sup>2</sup> です。

**表6 田原市内の二級河川**

水系名	河川名	河川延長 (m)	流域面積 (km <sup>2</sup> )
池尻川	池尻川	1,723	9.4
精進川	精進川	809	5.7
天白川	天白川	5,118	6.3
免々田川	免々田川	3,747	8.0
新堀川	新堀川	2,230	6.3
今堀川	今堀川	2,100	5.6
今池川	今池川	4,280	12.5
汐川	汐川	8,876	37.3
	清谷川	2,517	10.0
	庄司川	680	1.2
	宮川	1,500	1.0
	青津川	1,140	3.9
蜷川	大日川	1,860	2.9
	蜷川	3,729	6.8
計		40,309	116.9

資料：愛知県河川一覧表（平成8年4月1日現在）

※準用河川…57河川（総延長48,550m、総流域面積66,84km<sup>2</sup>）

#### ◎河川現況図



**図 37 渥美半島の河川**



#### 4) 下水道

本市の下水道は、公共下水道、農業集落排水及びコミュニティプラントにより整備されています。

市全体の普及率（供用区域内人口/行政人口）は 91.3% で、その内公共下水道が 48.1%、農業集落排水が 42.8% です。また、水洗化率（水洗化人口/共用区域内人口）は、市全体で 87.9% となっており、処理区分別に見ると公共下水道が 84.7%、農業集落排水が 91.3% となっています。

**表7 下水道の普及率・水洗化率の状況**

◎ 公共下水道処理施設

処理区	計画区域面積	整備面積	整備率※1	計画処理人口	供用区域内人口	接続人口※2	普及率※3	水洗化率※4
田原	874ha	587ha	67.2%	31,000人	22,884人	20,506人	35.5%	89.6%
赤羽根	90ha	87ha	96.7%	2,300人	2,319人	1,820人	3.6%	78.5%
渥美	236ha	192ha	81.4%	6,300人	5,737人	3,870人	8.9%	67.5%
小計	1,200ha	866ha	72.2%	39,600人	30,940人	26,196人	48.1%	84.7%

◎ 農業集落排水処理施設

処理区	計画区域面積	整備面積	整備率※1	計画処理人口	供用区域内人口	接続人口※2	普及率※3	水洗化率※4
六連	20ha	20ha	100.0%	700人	597人	586人	0.9%	98.2%
白谷	13ha	13ha	100.0%	400人	251人	251人	0.4%	100.0%
吉胡	23ha	23ha	100.0%	500人	358人	358人	0.6%	100.0%
片浜	9ha	9ha	100.0%	370人	225人	224人	0.3%	99.6%
浦	64ha	64ha	100.0%	2,200人	1,643人	1,636人	2.6%	99.6%
谷熊六連	85ha	85ha	100.0%	830人	800人	795人	1.2%	99.4%
波瀬	10ha	10ha	100.0%	500人	374人	369人	0.6%	98.7%
新美	6ha	6ha	100.0%	250人	162人	162人	0.3%	100.0%
野田	131ha	131ha	100.0%	4,810人	3,217人	3,203人	5.0%	99.6%
藤七原	10ha	10ha	100.0%	560人	359人	357人	0.6%	99.4%
大久保	77ha	77ha	100.0%	2,300人	1,718人	1,678人	2.7%	97.7%
神戸	355ha	355ha	100.0%	2,990人	2,566人	2,468人	4.0%	96.2%
大草	171ha	171ha	100.0%	1,460人	1,274人	1,149人	2.0%	90.2%
百々	22ha	22ha	100.0%	690人	579人	561人	0.9%	96.9%
高松	65ha	65ha	100.0%	2,290人	1,538人	1,465人	2.4%	95.3%
若戸	132ha	132ha	100.0%	2,650人	1,785人	1,657人	2.8%	92.8%
日出	12ha	12ha	100.0%	390人	304人	304人	0.5%	100.0%
宇津江	7ha	7ha	100.0%	440人	289人	289人	0.4%	100.0%
和地	50ha	50ha	100.0%	1,620人	1,061人	1,053人	1.6%	99.2%
泉南部	47ha	47ha	100.0%	1,210人	882人	882人	1.4%	100.0%
向新	23ha	23ha	100.0%	740人	641人	640人	1.0%	99.8%
小中山	81ha	81ha	100.0%	2,910人	1,945人	1,668人	3.0%	85.8%
岬中部	106ha	106ha	100.0%	2,780人	2,098人	1,807人	3.3%	86.1%
泉北部	102ha	102ha	100.0%	2,810人	2,194人	906人	3.4%	41.3%
中山	85ha			2,300人				
小計	1,706ha	1,621ha	95.0%	38,700人	26,860人	24,468人	41.7%	91.1%
その他関連								
六連				388人	322人	322人	0.5%	100.0%
波瀬				420人	382人	382人	0.6%	100.0%
小計				808人	704人	704人	1.1%	100.0%

◎ コミュニティプラント等（汚水処理施設）

処理区	計画区域面積	整備面積	整備率※1	計画処理人口	供用区域内人口	接続人口※2	普及率※3	水洗化率※4
夕陽が浜	8ha	8ha	100.0%	800人	279人	275人	0.4%	98.6%
小計	8ha	8ha	100.0%	800人	279人	275人	0.4%	98.6%

◎ 田原市全施設

処理区	計画区域面積	整備面積	整備率※1	計画処理人口	供用区域内人口	接続人口※2	普及率※3	水洗化率※4
合計	2,914ha	2,495ha	85.6%	79,908人	58,783人	51,643人	91.3%	87.9%

	計画処理人口(人)	供用区域内人口(人)	接続人口(人)※2	普及率※3	水洗化率※4
公共下水道	39,600人	30,940人	26,196人	48.1%	84.7%
農業集落排水	39,508人	27,564人	25,172人	42.8%	91.3%
コミュニティプラント	800人	279人	275人	0.4%	98.6%
合計	79,908人	58,783人	51,643人	91.3%	87.9%

※1 整備率 = (整備面積/計画区域面積)

資料：下水道課（平成27年3月31日）

※2 接続人口 = (水洗化人口)

※3 普及率 = (供用区域内人口/行政人口)

※4 水洗化率 = (水洗化人口/供用区域内人口)

## 8. 土地利用規制

### 1) 農業振興地域・農用地

本市における農業振興地域面積は、11,673haでその内農用地区域は6,890haとなっており、この内、農用地として利用されている面積は5,963haです。

### 2) 森林地域

森林法に基づく森林計画の対象となる森林面積は5,373haであり、その内3,486haが人工林、1,713haが天然林となっています。また、保安林は1,120haが指定されています。

### 3) 自然公園

市内のほぼ全域において、三河湾国定公園及び渥美半島県立自然公園区域が指定されています。国定公園の総面積は4,133haで、特別保護地区に4ヶ所指定されています。また、県立自然公園の総面積は12,556haで、特別地域に1ヶ所指定されています。

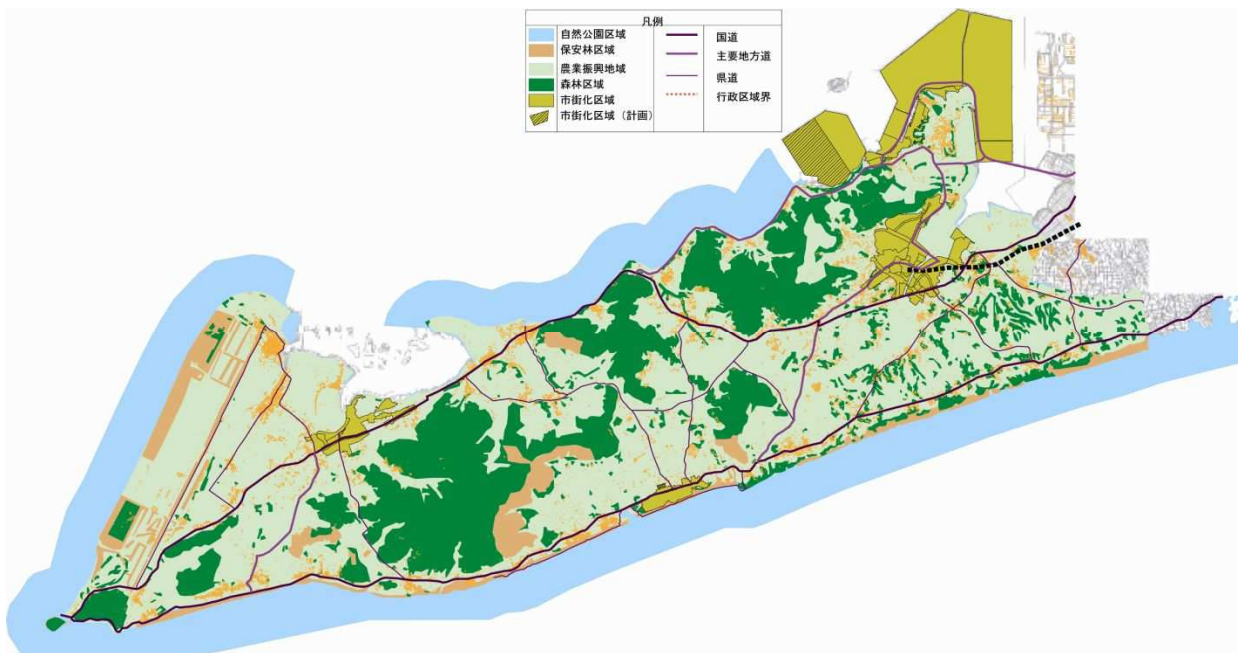


図38 農業振興地域、森林地域、自然公園等の土地利用規制